

第46回

福島県児童・生徒木工工作コンクール

表彰式

開催日時 令和3年11月27日（土） 午前11時～12時

開催場所 いわきワシントンホテル（いわき市）

福島県木材青壮年協会

式 次 第

【表 彰 式】

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 来 賓 紹 介
4. 講 評
5. 表 彰
6. 祝 辞
7. 閉 会

【記 念 撮 影】

出席者名簿 (敬称略)

【ご 来 賓】

福島大学人間発達文化学類教授	新 井 浩	(あらい ひろし)
関東森林管理局磐城森林管理署長	鈴 木 明	(すずき あきら)
福島県農林水産部林業振興課副課長	高 橋 宏 成	(たかはし ひろしげ)
いわき市農林水産部長	千 葉 伸一郎	(ちば しんいちろう)
福島民報社いわき支社長	鞍 田 炎	(くらた ほのお)
福島県木材協同組合連合会専務理事	佐 藤 守	(さとう まもる)
NHK福島放送局長	半 沢 治 久	(はんざわ はるひさ)
公益財団法人		
ふくしま海洋科学館理事長	古 川 健	(ふるかわ たけし)
磐城流域いわき地区 林業活性化センター理事長	田 子 英 司	(たご えいじ)

【主 催 者】

福島県木材青壮年協会長	山 崎 和 昭	(やまざき かずあき)
-------------	---------	-------------

【受 賞 者】

福島県知事賞	第1部	和 田 千 広	(わだ ちひろ)
”	第2部	安 西 凜 真	(あんざい りま)
福島県教育委員会教育長賞	第1部	木 村 惺	(きむら せい)
”	第2部	福 島 悠 太	(ふくしま ゆうた)
関東森林管理局長賞		花 塚 桜	(はなつか さくら)
いわき市長賞		舟 山 凜太郎	(ふなやま りんたろう)
福島民報社長賞		遠 藤 正 基	(えんどう まさき)
福島県木材協同組合連合会長賞		山 田 泰 士	(やまだ たいし)
福島県林業会館理事長賞		和 田 晃 義	(わだ あきよし)
NHK福島放送局長賞		根 本 孝 明	(ねもと のりあき)
ラジオ福島社長賞		田 口 元 音	(たぐち ながと)
福島テレビ社長賞		安 西 来 真	(あんざい くるみ)
アクアマリンふくしま賞		斎 藤 悠 汰	(さいとう ゆうた)
福島県木材青壮年協会長賞	第1部	井 上 生 暉	(いのうえ いぶき)
福島県木材青壮年協会長賞	第2部	高 野 妃 那	(たかの ひな)

開催の趣旨

【目的】

再生可能な循環型資源として広く知られている木材は、地球温暖化防止に極めて有効な二酸化炭素の固定の手段としても注目を浴びています。このように優れた特性を持つ木材を実際に自分で切ったり、削ったり、組み合わせながら、香り・色・肌触り等の木の持つ良さを実感することで、未来を担う子どもたちの感受性を豊かにするお手伝いをしながら、木材の利用推進を図ることとします。

【主催等】

- ◇ 主催 ◇ 福島県木材青壮年協会・福島民報社・福島県木材協同組合連合会
- ◇ 後援 ◇ 福島県・福島県教育委員会・関東森林管理局・いわき市・
福島県林業会館・NHK福島放送局・ラジオ福島・福島テレビ・
アクアマリンふくしま・磐城流域いわき地区林業活性化センター

【応募資格】

- (1) 福島県内の小中学校の児童・生徒であること。
- (2) 木材及び林産物を主材料として利用・加工した創作品で、作品の大きさは一辺の大きさが60cmを越えないもの。

【審査基準】

- | | 配点（100点） |
|--------------------------------------|----------|
| (1) 子どもの頭で考え、子どもの手で作ったもの。 | 30点 |
| (2) 木の持ち味を活かし、独創性に優れていること。 | 30点 |
| (3) 機能、デザインが優れているもの。 | 20点 |
| (4) 工作技術が優れているもの。 | 20点 |

経過説明

【審査内容】

1. 出展作品数 総数478点(24校)
うち、各校より推薦のあった74点について審査した。
2. 審査会 令和3年9月17日いわき・ら・ら・ミュウにおいて、次の審査委員により「入賞者名簿」のとおり各賞が決定された。

◇審査委員◇(敬称略)

関東森林管理局磐城森林管理署長	鈴木 明
福島県農林水産部林業振興課技師	片寄 芳紀
いわき市農林水産部参事兼林務課長	佐藤 不二夫
福島民報社いわき支社報道部長	安島 剛彦
福島テレビいわき支社長	岡田 健太郎
ふくしま海洋科学館理事長	古川 建
福島県木材青壮年協会会長	山崎 和昭



【その他】

3. 全国コンクールへの参加

上位入賞作品については、令和4年1月～3月開催の全国コンクールに出展し、さらに入賞した作品については、令和4年5月28日札幌市で開催される日本木材青壮年団体連合会全国会員大会会場において表彰される。

※実施日程については変更となる可能性が御座います。

4. 作品の展示及び展示期間

令和2年9月18日（土）～9月19日（日）

於：いわき・ら・ら・ミュウ 2階 会議室（いわき市）

令和3年9月20日（月）～10月17日（日）

於：アクアマリンふくしま（いわき市）※閉館期間あり

令和3年10月18日（月）

於：福島県林業会館（福島市）

受賞作品は県木連のホームページからも見ることができます。

木工工作コンクール記事 URL

<http://www.fmokuren.jp/publics/index/21/>

QR コードからも該当記事に繋がります。



講 評

第46回福島県児童・生徒木工工作コンクール審査委員長

福島大学人間発達文化学類教授

新 井 浩

第46回福島県児童生徒木工工作コンクールの審査はいわき市で行われました。その審査結果について講評を交えお伝えします。

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により、不自由な中での作品製作だったろうと思います。しかしながら入賞を果たした作品は、きらりと光る素敵な思い付きや、しっかりと作り込みがあり、たいへん見応えがありました。

福島県知事賞第1部に選ばれた和田千広さんの〈ドレスブーケ〉はカンナ屑を使ってドレスにもブーケにも見えるよう高度に工夫された作品となっていました。カンナ屑のつややかさが美しく生かされ、また葉っぱの色味も美しく使われ、まとまりと華やかさのある知事賞にふさわしい作品になりました。

福島県知事賞第2部に選ばれたのは安西凜真さんの〈食事のキリン〉でした。流木がキリンの頭に見えたという発想力、それを縦にしてキリンが木の葉を食べている様子に仕上げた構想力、ともにたいへん優れていると思いました。木の葉が折れそうな点は接着剤で補強するなどの必要があると感じますが、たいへん独創性に優れた作品で好感が持てました。

県教育委員会教育長賞第1部は木村惺くんの〈むかしのくらし〉に決定しました。博物館に展示された竪穴式住居を見たときの驚き、昔の暮らしに好奇心を持って想像を巡らす心の働きが分かる作品でした。藁を屋根に、樹の皮を地面の石に見立てて丁寧に仕上げられていました。

県教育委員会教育長賞第2部は福島悠太くんの〈ウッド・ゴジラ〉が選ばれました。ゴジラは自体も創作物でとても質感豊かな造形です。この作品ではさらに質感豊かに、樹の皮や赤い貝殻を使って作られています。空を見上げた様子や尻尾の動きの表現も見事でした。

関東森林管理局長賞に選ばれたのは花塚桜さんの〈森のゆうえんち〉でした。作品は細かな角材や丸棒を丁寧につなぎ合わせて素敵な遊園地を表現していました。ティーカップにどんぐりが入るといふ工夫や、椅子やベンチにマツボックリが座っている様子は、森の植物のためにこの遊園地が作られていることを感じさせる素敵な作品でした。

いわき市長賞には舟山凜太郎君の〈波打ちぎわのカメ〉が選ばれました。小学2年生とすることで家族と一緒に作った作品でしょうか。本人コメントに海の生き物が好きであること、おじいちゃんが作り出したカンナ屑を見て作品に生かしたいと思った点など本人の意欲がうかがえる作品でした。

福島民報社長賞に選ばれた遠藤正基くんの〈輝け聖火台〉では東京オリンピックの聖火台が表現されていました。赤々と燃える聖火を支える聖火台が堂々と、そして色鮮やかに作られた点が評価につながったと思います。八角形の台を作る手順もよく考えられた作品だったと思います。

次は県木連会長賞に選ばれた山田泰士君の〈エンペラーペンギン〉です。大きなマツボックリを使ってエンペラーペンギンを表現した様子が実に愛らしかったです。クチバシや眼や飾り羽などもバランスの良い大きさで風格もあり、長く手元に飾って置きたい作品となっていました。

県林業会館理事長賞に選ばれた和田晃義さんの〈サーフィンの男〉ではカンナ屑の波がとてもよかったです。オリンピックのサーフィンがかっこよかったという思い出が活かされて、波の様子に動きと迫力がある作品となりました。男の表現は日焼けを表したようでもあり、ゲームに出てくる登場人物のようでもあります。

NHK 福島放送局長賞に選ばれたのは根本孝明さんの〈ゴージャスシップ〉です。本人コメントから、理想の船を作れたという達成感が伝わってきました。作品構想の大きなところでは、海賊船と豪華客船を組み合わせるという伸び伸びした発想に大変驚き、細かなところでは、色違いの床タイルやゴム大砲など遊び心が痛快な作品となっていて、とても感心しました。

ラジオ福島社長賞には田口元音さんの〈磯から顔を出したエビ〉が選ばれました。エビのヒゲや足などの硬い感じがしっかりと感じられて作者の感性の素晴らしさが感じられました。エビを斜めに配置した様子に動きがあり、岩の質感に深い味わいのある作品となっていました。

福島テレビ社長賞に選ばれた安西来真さんの〈かめのおさんぽ〉ではカメがたいへん質感高く表現されていました。現実の甲羅にとらわれずのびのびとした甲羅の感じの追求や、カメの首や足の感じなど彫刻的な味わいがとてもある作品でした。

さて、次は今年度新たに作られたアクアマリンふくしま賞です。アクアマリンふくしまさんには、木工工作コンクールに興味関心をお寄せいただき、温かなご支援をたいへん有難うございます。授賞第1作になったのは斎藤悠汰さんの「ちょうちんあんこう」です。ベースの形に枯葉を貼り付け、ちょうちんあんこうの質感を見事に表現しています。また背ビレ、尾ビレなどのパーツも愛らしく、近くに飾っておきたい作品になりました。

県木青協会賞第1部に選ばれたのは、井上生暉さんの〈八岐大蛇(ヤマタノオロチ)〉です。本人コメントで鱗を作るのに苦労したと書かれているように、細かく手の入った作品となりました。枝分かれした枝の先端に、さらに動きを強調するように頭部を接木するなど、工夫の積み重ねが素晴らしかったです。

高野妃那さんの〈森のお弁当〉は県木青協会賞第2部に選ばれました。色合いも質感も素晴らしかったです。これは何かな？どんな味がするかな？など見ているだけで空想の広がる素敵な作品でした。

さて、今年度のコンクールでは新型コロナウイルス感染症で不自由な生活をせざるを得ない中で、たくさんの工夫や良さと向き合った作品を見ることが出来ました。こうした工夫や良さというものは、実はたくさんの失敗の上に成り立っています。

そして失敗というマイナスが、工夫や良さというプラスにつながっていくには、心の働きが実に大切になってきます。

失敗してもめげない、失敗の中から何かをつかむ、上手くいくまでやり遂げる、このようなたくましく強靱な心の有り様を、近年ではGRID(グリッド)と呼んで、どうすればこうした心の有り様を持てるのかという研究が進んでいます。

こうした心の有り様を、私たちは樹から学ぶことができます。

一方には人の手によって美しく植林された森があります。こうした森は美しさというプラスの反面、最後まで人の手が必要というマイナス面があつて、自律的な成長は望めません。すべての樹木が人によって消費される運命にあります。

一方にはいくつもの偶然や好条件が重なって丘の上に一本そびえる大木があります。こうした木は他の木や草と競い合い、台風や稲妻などの気象変動を乗り越えてきました。諺（ことわざ）に「丘の上の一本木は切るな」と言われます。これは気象変動を乗り越える際に、内部にたくさんの工夫を抱えた結果それが木の癖になって、人にとっては手強いからです。人さえも跳ね返すほど逞しく生き抜いてきた木は、自律的に成長し、次世代を育んでいきます。

皆さんもたくさんの経験をし、周りからの働きかけを自らのものとして生きていってください。そしてその力を社会に生かすことができるよう願って講評の言葉といたします。

また来年お会いしましょう。

入賞者名簿

【最優秀賞】

福島県知事賞 1部	ドレスブーケ	いわき市立 小名浜第二小学校	4年	わだ ちひろ 和田 千広
福島県知事賞 2部	食事中のキリン	福島市立 野田小学校	6年	あんざい りま 安西 凜真

【優秀賞】

福島県教育委員会 教育長賞 1部	むかしのくらし	いわき市立 磐崎小学校	3年	きむら せい 木村 惺
福島県教育委員会 教育長賞 2部	ウッド・ゴジラ	いわき市立 小名浜第三小学校	5年	ふくしま ゆうた 福島 悠太
関東森林管理局長賞	森のゆうえんち	いわき市立 中央台東小学校	6年	はなつか さくら 花塚 桜
いわき市長賞	波打ちぎわのカメ	いわき市立 泉小学校	2年	ふなやま 凜太郎 舟山 凜太郎
福島民報社長賞	輝け聖火台	いわき市立 御厩小学校	6年	えんどう まさき 遠藤 正基
福島県木材協同組合連合会長賞	エンペラーペンギン	いわき市立 磐崎小学校	6年	やまだ たいし 山田 泰士
福島県林業会館理事長賞	サーフィンの男	いわき市立 小名浜第二小学校	1年	わだ あきよし 和田 晃義
NHK福島放送局長賞	ゴージャスシップ	いわき市立 平第五小学校	6年	ねもと のりあき 根本 孝明
ラジオ福島社長賞	磯から顔を出したエビ	いわき市立 小名浜第二小学校	6年	たぐち ながと 田口 元音
福島テレビ社長賞	かめのおさんぽ	福島市立 野田小学校	1年	あんざい くるみ 安西 来真
アクアマリンふくしま賞	ちょうちんあんこう	いわき市立 泉北小学校	6年	さいとう ゆうた 斎藤 悠汰
福島県木材青壮年協会 会長賞 1部	八岐大蛇 (ヤマタノオロチ)	いわき市立 泉小学校	3年	いのうえ いぶき 井上 生暉
福島県木材青壮年協会 会長賞 2部	森のお弁当	いわき市立 泉北小学校	6年	たかの ひな 高野 妃那

【入選】

福島県木材青壮年協会会長賞	ぼくの本だな	柳津町立 柳津小学校	3年	あずま りょうと 東 遼人
	スイカ	いわき市立 上遠野小学校	1年	きだ ななか 木田 七華
	ようせいの住むかべかけ だな	いわき市立 植田小学校	3年	すずき ういか 鈴木 初香
	おさいせんばこ	いわき市立 三和小学校	2年	さんべい りゅうと 三瓶 隆斗
	大きなひまわり	いわき市立 泉北小学校	3年	あべ ゆうな 阿部 優菜
	スケートボード	いわき市立 郷ヶ丘小学校	4年	いしい 石井そよか
	木のカメ	いわき市立 平第五小学校	4年	やまだ あゆむ 山田 歩夢
	ビー玉野球	いわき市立 小川小学校	4年	わたなべ こうき 渡辺 光稀
	TOKYOオリンピック	いわき市立 御厩小学校	5年	すずき こころ 鈴木 心愛
	ゾウ	いわき市立 小名浜第一小学校	5年	すずき こうたろう 鈴木光太郎
	秋の無人島キャンプ	いわき市立 泉小学校	6年	いながわ りい 稲川 凜衣
	丸木船	いわき市立 高野小学校	6年	おおわだしおん 大和田心温

☆☆☆第46回福島県児童・生徒木工工作コンクール入賞作品☆☆☆

(敬称略)

福島県知事賞 1部



「ドレスブーケ」

いわき市立小名浜第二小学校
4年 和田 千広

福島県知事賞 2部



「食事中のキリン」

福島市立野田小学校
6年 安西 凜真

福島県教育委員会教育長賞 第1部



「むかしのくらし」
いわき市立磐崎小学校
3年 木村 惺

福島県教育委員会教育長賞 第2部



「ウッド・ゴジラ」
いわき市立小名浜第三小学校
5年 福島 悠太

関東森林管理局長賞



「森のゆうえんち」
いわき市立中央台東小学校
6年 花塚 桜

いわき市長賞



「波打ちぎわのカメ」
いわき市立泉小学校
2年 舟山 凜太郎

福島民報社長賞



「輝け聖火台」
いわき市立御厩小学校
6年 遠藤 正基

福島県木材協同組合連合会長賞



「エンペラーペンギン」
いわき市立磐崎小学校
6年 山田 泰士

福島県林業会館理事長賞



「サーフィンの男」
いわき市立小名浜第二小学校
1年 和田 晃義

NHK福島放送局長賞



「ゴージャスシップ」
いわき市立平第五小学校
6年 根本 孝明

ラジオ福島社長賞



「磯から顔を出したエビ」
いわき市立小名浜第二小学校
6年 田口 元音

福島テレビ社長賞



「かめのおさんぽ」
福島市立野田小学校
1年 安西 来真

アクアマリンふくしま賞



「ちょうちんあんこう」
いわき市立泉北小学校
6年 齋藤 悠汰

福島県木材青壮年協会長賞 第1部



「八岐大蛇（ヤマタノオロチ）」
いわき市立泉小学校
3年 井上 生暉

福島県木材青壮年協会長賞 第2部



「森のお弁当」
いわき市立泉北小学校
6年 高野 妃那